



医療法人社団 岡村医院（兵庫県神戸市） 理事長・院長

岡村 縁



おかむら・ゆかり 1977年鳥取大学医学部卒業、同第一内科入局。84年同医学部助手、87年医学博士取得。公立社病院、隈病院の非常勤医師を経て、90年より現職。日本内科学会認定内科医、日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医、日本甲状腺学会員。兵庫県医師会（代議員）、神戸市医師会（代議員）、神戸市西区医師会（理事）。

趣味？ こだわり？

「君も趣味を持ったら？」と、今、天体望遠鏡に夢中の主人は言います。少しでも私のクレームが減るように、とのことなのでしょう。しかし、なかなか時間が取れません。そんな折、この“ほっとひと息”の原稿依頼をいただきました。待合室の生け花が毎週変わるからと……。楽しんでしているのだから、これも趣味かも？

1990年4月、38歳で神戸市西区に開業しました。開業時のこだわりは「素敵な建物にすること、生活感のない医院にすること」で、『医院建築』（彰国社）によく取り上げられていた木原千利先生に設計をお願いしました。2～3階が住宅ですがプライバシーは守られ、通院される患者さんから「先生はどこに住んでいるの？」と質問されたこともあります。わんぱくざかりの男の子が2人いましたが、自宅の音が聞こえることもなく、診療に集中できました。木原先生には感謝しています。

開業以来、今でも続いている私のこだわりは、尿沈渣を顕微鏡で見ていることです。私は鳥取県米子市の出身で、鳥取



医院の外観です。『医院建築No.12』（彰国社）に紹介された【三角形プランの住宅】の1つです。リフォームの時に一部のテラスを円くしました。駐車場確保のため緑が減ったのが残念です。

大学医学部第一内科に入局しました。当時は、アナリーゼ、尿沈渣は当然、骨髄穿刺までも主治医が見ており、指導医の池田匡先生（糖尿病専門）には鍛えられました。今でも尿沈渣は自分で見ないと納得いきません。

生け花は、医学部の学生時代、「少しでも習っておけばどうにか生けることができる」との母の勧めで小原流のお花を習ったのが始まりです。下手ですがお花を生けるのは大好きでしたので、待合室で少しでもリラックスしていただけるよう、開業以来、毎週火曜日に生けています。時には華やかに、時には地味な色合いで、四季折々のお花は心を温かくしてくれます。患者さんからは「いつも楽しみ！」「今日の花の名前を初めて知った」などと言っていただいています。生けることは私には当たり前の、日常なことですが、今回原稿依頼をいただいて、これも私の趣味といえるかもしれないと、うれしく思いました。

医学部2年生の時からの付き合いになる車も大好きです。初めての車はダイハツのフェローマックスでした。この頃から、いつかはジャガーに乗りたいたったため、自宅の車庫は最初からサイズだけはジャガー仕様にしたほどです。やっとジャガー XJ を手に入れた時は感激し、以後5台のジャガーを乗り継ぎま



今年の春のお花です。お花の定位置は、待合室正面の掲示板の下です。最近、花屋さんがお花の名前を書いたカードを毎週添えてくださいます。

した。最後の赤いジャガー XJ ソプリンはパワーエンジンに軽量アルミボディのため、とてもよく走りましたが、フルモデルチェンジしてしまい、その後憧れる車が見つからない時期が続きました。しかしつい最近、乗ってみたい車を見つけました。ポルシェのパナメーラです。カーブでの安定性は思った以上で、この先何台乗り続けるかしら？と思うほど気に入っています。

今後の希望は、少しでも痩せること、運動のできる体形にしておくことです。そして少し自由になる時間をつくり、小学校1年生から8年間習ったバレエにチャレンジしたいです。主婦であり、母親であり、小さいけれど一つの医院の院長であり、二つの医院の事務長も兼ね、また、地区医師会の仕事もあるため、まとまった時間を生み出すのはなかなか難しいのですが、少しずつ、少しずつ時間をつくり、趣味を楽しみ、一つでも極めたいと思っています。